

の音也、娘は尼良切にて嬢と通ず、尊稱なり、天子は母后を稱し、宮人は皇后を稱して娘々といふ、俗語には女を尊て大娘とし、父母を稱して爺娘といへり、されば阿娘は古へ姫と云が如しといへり、

〔萬葉集〕長皇子御作歌

霞打安良禮松原住吉之弟日娘與見禮常不飽香聞

〔空穂物語 藤原の君〕

大井殿のおとこよとこ女いつとこに宮の御はらに十五さいよりうみ給、おとこやとこ女九とこ、略中おとこ四人女三人七人の宮たちの御母にて、一の女御年卅

一。大井殿の御はらにせんだいの御はらからの中つかさの宮、きたのかたとし廿一同じはらの三。君。右の大井殿のとう宰相のきたのかた年十九、四の君。右大臣殿の次郎左近の中將源のさねよりのきたのかたとし十八、宮のはらの五の君。みんぶ卿のきたのかた年十七、六の君。右大臣藤原のたゞまさの太郎きたのかた十六、七の君。右大臣殿太郎ゑもんのかみ藤原のたゞとしのきたのかた十四、いまだ御男なき九の君。ありて宮ときこゆる十二、十のきみ。ちご宮十一、大井殿の御はら十一は十、十二の九、こなたの御はらの十三のきみ。そで宮八つ、十四の君。けす宮七、その御おと、のをとこ宮六になんおはしましける、かくてこ、ばらのおとこ女おとこもめぐし給へる、さらにほかすみせさせ奉り給はず、おほきなる家なり、我よのかぎりはかくてすみ給へ、ほかへおはせんは我こにあらずときこえ給て、四丁の殿をはらひとつをば、まぢ一にすませ奉り給いつまのおと、ひとつ、十一けんのがやひとつ奉り給て、あなたの御はらのみとこ、宮の御はらのよとこ、まぢ一にすませ奉り給ふ、

〔榮花物語 初花〕

との、おまへ長道みや子彰をむすめ。にてもち奉りたる、まろはぢならず、まろをち、にてもち給へる宮わろからず、又は、もいとさいはひあり、よきおとこも給へりなど、たは